

福岡空港の総合的な調査

PIレポートステップ1(詳細版)

(別冊付録)
航空・空港についての関連知識
用語集



■航空機の大きさ比較



写真提供: 日本航空

B777-300 全長73.9m:全幅60.9m:標準座席数470席:巡航速度905km/h



写真提供: 全日本空輸

B747-400 全長70.7m:全幅59.6m:標準座席数569席:巡航速度910km/h



写真提供: スカイマークエアラインズ

B767-300ER 全長54.9m:全幅47.6m:標準座席数309席:巡航速度880km/h



写真提供: 日本航空

MD90 全長46.5m:全幅32.9m:標準座席数166席:巡航速度815km/h



写真提供: 全日本空輸

A320 全長37.6m:全幅34.1m:標準座席数166席:巡航速度840km/h



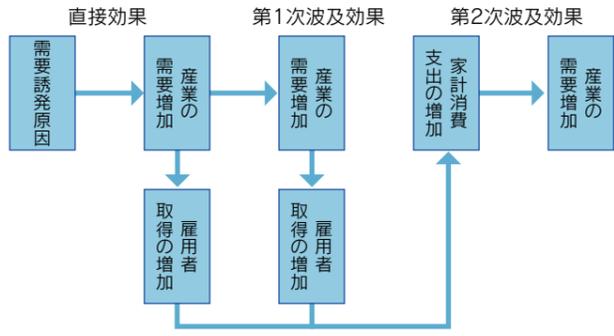
写真提供: 天草エアライン

DASH8-100 全長22.3m:全幅25.9m:標準座席数39席:巡航速度502km/h

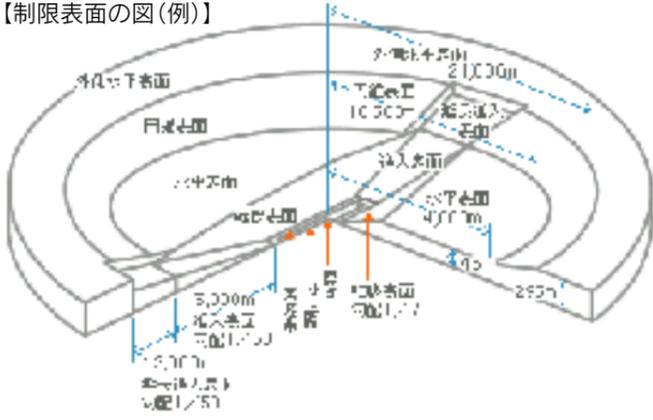


※標準座席数は航空会社ごとに異なります。

用語	読み	用語の意味
ILS(計器着陸装置)	あいえるえす	着陸進入中の航空機に対し、指向性電波を発射し、滑走路への進入コースを指示する装置。
IT化	あいてーか	従来の情報伝達手段をコンピュータを使ったデータ通信技術で効率的に行えるようになること。IT(Information Technology)とは、情報通信技術のことであるが、近年はコンピュータを使ったインターネット等のデータ通信技術のことを指すことが一般的である。
アクセス/イグレス	あくせす/いぐれす	一般にはある目的地へ移動するための経路や移動する行為をいう。特に航空機を利用する場合には、出発地から空港に至るまでの交通を「アクセス」といい、航空機で到着した空港から目的地に至るまでの交通を「イグレス」という。
ASEAN	あせあん	東南アジア諸国連合の略称。1967年8月にバンコクで発足し、加盟国は、ベトナム、フィリピン、ブルネイ、マレーシア、インドネシア、シンガポール、カンボジア、タイ、ミャンマー、ラオスの10カ国。
ASEAN4	あせあんふぉー	ASEAN加盟国のうち、フィリピン、マレーシア、インドネシア、タイ。
EPA	いーぴーえー	経済連携協定(Economic Partnership Agreement)の略称。特定の国や地域との間でFTA(自由貿易協定)を基礎として、より幅広く経済的な関係強化を図ることを目的とする2国間や地域間の協定である。投資、人の移動、知的所有権、競争政策、協力などを含む協定であり、我が国は2004年3月に、メキシコとの間でのEPAの大筋合意に達した他、韓国、タイ、フィリピン、マレーシアとも締結交渉を進めている。
EU	いーゆー	欧州連合(European Union)の略称。1993年11月に欧州連合条約(マーストリヒト条約)発効により、経済・通貨統合等をめざし設立された。第4次合併までの15カ国に加え、2004年5月の第5次合併で10カ国が加わり、現在25カ国が加盟している。
イールド	いーると	イールド(yield)。旅客キロあたりの旅客収入(1人の旅客を1km運送することによって得られた運賃の平均)のことを指し、様々な水準の運賃の加重平均値を示す指標となっている。
ICAO	いかお 又は あいかお	国際民間航空機関(International Civil Aviation Organization)の略称。国際民間航空条約に基づき国際民間航空の安全かつ秩序ある発展を目的に設立された国連の専門機関。本部はモントリオール。
インバウンド需要	いんばうんどじゅよう	海外から訪日する旅客需要。(⇔アウトバウンド需要)
FTA	えふていえい	自由貿易協定(Free Trade Agreement)の略称。二国間または地域間の協定により、関税や数量制限など貿易の障害となる壁を相互に撤廃し、自由貿易を行なうことによって利益を享受することを目的とした協定であり、EUやNAFTA(地域間協定)等がある。

用語	読み	用語の意味
エプロン/スポット	えぷろん/すぽっと	乗客の乗降や貨物の積み下ろし、給油、駐留または整備のために航空機を駐機させることを目的として指定される区域(駐機場)。駐機目的によって、ローディングエプロン(乗降のためのエプロン)、ナイトステイエプロン(夜間駐機のためのエプロン)等がある。また、エプロン内にあり、航空機が駐機する位置をスポットという。単位は、バース。 (※口絵参照)
加重平均値	かじゅうへいきんち	平均値を計算する時、各項の数値にその重要度に比例した係数を掛け、各項に重みをつけてから平均する重みつき平均のこと。
滑走路処理容量	かつそうろしより ようりょう	離陸機、着陸機の滑走路占有時間を基本として、大型航空機(ヘビー機)の割合や管制指示応答時間等を考慮して算出する航空機を安全に離着陸させるための値を処理能力といい、それを基本としてある単位時間当たりの航空機の発着回数の上限值として算出されるものを滑走路処理容量という。
滑走路占有時間	かつそうろせんゆう じかん	福岡空港においては、出発機の場合は、航空機が滑走路に進入(停止線通過)してから滑走路末端を通過するまでの時間。到着機の場合は、航空機が滑走路末端を通過してから航空機の尾部が滑走路縁を離脱するまでの時間。滑走路占有時間は1時間当りの離着陸回数を試算するための基礎的な数値となるもの。
幹線	かんせん	本調査では、新千歳、羽田、伊丹、関西、福岡、那覇の各空港を相互に結ぶ国内定期航空路線をいう。
基本施設	きほんしせつ	滑走路、着陸帯、誘導路、エプロン(駐機場)の総称をいう。
グライドスロープ(GS)	ぐらいどすろーぷ	(※口絵参照)
経済波及効果分析	けいざいはきゅう こうかぶんせき	直接効果及び波及効果の波及経路においてどの程度の経済的効果が現われたか産業連関表等から分析すること。 
ゲートラウンジ	げーとらうんじ	出発便に来る出発乗客を集めるために使われているゲートに隣接した場所。搭乗待合室ともいう。

用語	読み	用語の意味
航空サービス	こうくうさーびす	本調査では、空港の利用者が、旅行計画の段階から目的地に到着するまでの一連の旅行プロセスの中で提供を受けるサービスをいう。
航空自由化	こうくうじゆうか	規制業種である航空業界の規制緩和と、これを受けた業界動向のこと。日本の航空自由化は、1990年代後半から運賃の自由化、需給調整の撤廃、新規参入の自由化などのステップで進められてきた。
航空ネットワーク	こうくうねっとわーく	空港と空港を結ぶ路線網のことをいう。
高次都市機能	こうじとしきのう	行政、教育、文化、情報、商業、交通、レジャーなど住民生活や企業の経済活動に対して、各種のサービスを提供する都市自体が持つ高いレベルの機能で、都市圏を越え、広域的に影響のある機能のこと。
高度消費サービス機能	こうどしょうひ さーびすきのう	複合型商業施設、テーマパークなど高度な消費サービス機能のこと。消費サービスとは一般にモノが残らず、その場で商品やサービスが消費される飲食産業、娯楽産業等を指す。
国連ハビタット	こくれんはびたつと	国際連合人間居住計画(United Nations Human Settlements Programme)の略称。世界各地で急速に進む都市化や居住に関する様々な問題に取り組む国連機関である。福岡市に福岡事務所があり、アジア・太平洋地域における、開発途上国の居住問題に取り組んでいる。九州唯一の国連機関である。本部は、ケニアのナイロビ。
コンベンション	こんべんしょん	人を中心とした物、知識、情報などの交流の場。会議、学会、見本市、展示場、博覧会、スポーツ大会、発表会など。
SARS	さーず	重症急性呼吸器症候群(Severe Acute Respiratory Syndrome)の略称。SARSコロナウイルスを病原体とする新しい感染症で2002年に中国広東省などから各地へ感染が拡大した。2003年7月5日、WHOが最後のSARS伝播確認地域である台湾の指定を解除し、SARSの終息を宣言したが、終息宣言までの感染者数は8,098名、死者は774名に及んでいる。
3PL (サードパーティ・ロジスティクス)	さーどぱーてい ろじすていっくす	顧客から、運輸業務を個別に請け負うにとどまらず、調達から在庫管理、棚卸し、配送まで顧客の全物流業務を包括的に請け負って、企業の経営戦略上最適になるように物流システムを設計し、かつ、その物流業務を自社あるいは他社の物流設備を利用して実際に遂行する事業である。
SCM (サプライチェーン マネジメント)	さぶらいちえーん まねじめんと	企業活動の管理手法の一つ。取引先との間の受発注、資材の調達から在庫管理、製品の配送までをコンピュータを使って総合的に管理することで余分な在庫などを削減し、コストを引き下げる効果があるとされる。
施設使用料	しせつしょうりょう	旅客サービス施設使用料のことで、旅客がターミナルビルの設置者に対して支払う使用料をいう。
ジャストインタイム	じゃすといたいむ	必要な物を、必要な量だけ、必要な時に合わせて、必要な所へ届ける仕組みのこと。トヨタ自動車が「かんぱん方式」として全社的に採用したのがはじまりで、我が国の実践的物流理論として世界中に広まった。

用語	読み	用語の意味
(空港)種別	しゅべつ	空港整備法において定義する空港の種類であり、「主要な国内航空航空路線に必要な飛行場であって、政令で定めるもの」を第2種空港と定義づけられている。
主要地域拠点空港	しゅようちいきよてんくうこう	主要地域拠点空港(福岡、新千歳、那覇)とは、地域拠点空港のうち路線展開と利用の状況などから、国内航空ネットワークの地域拠点として大都市圏拠点空港に次ぐ重要な役割を果たしている空港を指す。
使用事業機	しようじぎょうき	他人の需要に応じ、航空機を使用して有償で旅客又は貨物の運送以外の行為を行う航空機。
進入表面	しんにゆうひょうめん	着陸帯の短辺に接続し、かつ、水平面に対し上方へ50分の1(現滑走路の場合)以上で国土交通省令で定める勾配を有する平面であって、その投影面が進入区域と一致するものをいう。(制限表面の項参照)
スライディングスケール	すらいでいんぐすけーる	離陸機、着陸機の機数組み合わせによって滑走路処理容量を求めるシミュレーション手法。離着陸を不規則に発生させ、離着陸比の発生確率による計算値をゴールシーク法により求める。滑走路に離陸機と着陸機が混在する場合、理想的に離陸、着陸が交互となると限らないことから、不規則な組み合わせによりシミュレーションを多数行って求める方法である。
制限表面	せいげんひょうめん	<p>空港及びその周辺において航空機が安全に運航できるように、空港およびその周辺に障害物のない空域を確保する必要がある。このために障害物を制限する表面を制限表面という。</p> <p>なお、制限表面は法令では定義付けされていないが、航空法に規定される進入表面、転移表面、水平表面、延長進入表面、円錐表面、外側水平表面の総称として扱われることが多い。</p> <p>【制限表面の図(例)】</p> 
セキュリティゲート	せきゅりていーげーと	保安検査ゲート。
騒音コンター	そうおんこんたー	コンターとは等高線のこと、騒音レベルの等しい地点を地図上に結んだものが、騒音コンターとなる。引かれたコンターで表される部分、つまり同一騒音レベルにより影響を受ける面積のことを指すこともある。
相関係数	そうかんけいすう	2つの変数の間の関係を示す尺度。相関係数の絶対値が1に近いほど強い相関がある。

用語	読み	用語の意味
WECPNL	だぶりゆいーしーびーえぬえる	加重等価平均感覚騒音基準(Weighted Equivalent Continuous Perceived Noise Level)の略称。夕方(19:00~22:00)は昼の3倍に、夜間(22:00~7:00)は10倍に重み付けをして、離着陸回数と時間帯を加味した1日あたりの航空機騒音の大きさを示している単位。
WTO	だぶりゆていーおー	世界貿易機関(World Trade Organization)の略称。WTO協定の管理・運営、貿易紛争の処理等を担うとともに、加盟国間の貿易交渉の場を提供する機関で、1995年1月に発足、本部はスイス・ジュネーブにある。WTOは、どの国に対しても同様の条件で関税などの通商規則を定めることを原則(最恵国待遇)としている。
WTO	だぶりゆていーおー	世界観光機関(World Tourism Organization)の略称。観光の振興と発展を目的として145ヶ国が加盟している世界観光機関。本部はマドリッド。
知識財産機能	ちしきざいせいさんきのう	ソフトウェア、企画・設計、広告・宣伝、デザイン、研究成果等の、それ自身が独立した価値を持つ知識・技術・情報などの知識財を生産する機能のこと。
着陸帯	ちゃくりくたい	<p>航空法にて「特定の方向に向かって行う航空機の離陸又は着陸の用に供するために設けられる飛行場内の矩形部分」と定義されており、離着陸の際、航空機が滑走路から逸脱したり、進入復行(着陸を再度試みるため上昇すること)する場合に、その安全性を確保するため、あるいは被害を軽減するために設けられる矩形(長方形)の区域。</p> <p>(例)</p> 
DID地区	でいーあいでいーちく	市町村の区域内で人口密度4,000人/km ² 以上の地区が、互いに隣接して、その人口が5,000人以上となる人口集中地区のこと。
転移表面	てんいひょうめん	(制限表面の項を参照)
搭乗率	とうじょうりつ	提供座席数に占める利用座席数の割合をいう。(ロードファクター)
トーイング	とーいんぐ	牽引車(towing car)で飛行機を他の場所へ移動させること。
トランジット	とらんじつと	目的空港へ行く途中、一旦途中の空港へ立ち寄り、便を乗り換えること。
ナイトステイエプロン	ないとすていえぷろん	(エプロン/スポットの項を参照)
NAFTA	なふた	北米自由貿易協定(North American Free Trade Agreement)の略称。米国、カナダ、メキシコ3国間の自由貿易協定であり、域内GDP約11.5兆米ドル、人口約4.1億という大規模経済圏で、1992年8月に基本合意し、1994年1月1日から発効している。

用語	読み	用語の意味
NIEs	にーず	新興工業経済地域群(Newly Industrializing Economies)の略称。工業化に成功した新興工業国家群は、OECD(経済協力開発機構)によって NICS(Newly Industrializing Countries)と名づけられたが、台湾・香港を国家として認めない中国の立場を配慮して、1988年のトロント・サミットで名称を NIEs と変更された。アジア地域のNIEsは、シンガポール・韓国・台湾・香港となっている。
PI	ぴーあい	PI=(Public Involvement)パブリックインボルブメントの略。市民等を対象に情報提供、意見収集を行い、地域のニーズにあったよりよい施策の選定とその施策に対する意思決定を支援するプロセスのこと。
飛行場/空港	ひこうじょう/ くうこう	飛行場とは、航空機が離着陸し得る諸施設の総体として一般的に使用される言葉であるが、明確な定義は存在しない。一方、空港とは、空港整備法において「主として、航空運送の用に供する公共用飛行場で、政令に定めるもの。」と定義されている。
標準偏差	ひょうじゅんへんさ	資料の散らばりの度合を表す数値。平均値と各資料の値の差(偏差)を二乗し、それを算術平均した値の平方根として求める。標準偏差が小さいことは、平均値のまわりの散らばりの度合が小さいことを示す。
フィーダー輸送	ふいーだーゆそう	フィーダーとは、幹線(本線)に対する支線のこと。フィーダー輸送とは支線的な輸送を指す。
VFR	ぶいえふあーる	有視界飛行方式。気象条件がよい場合、原則として、管制機関の指示を受けず、パイロットの判断で行う飛行方式。⇔IFR(計器飛行方式)
プッシュバック	ぶっしゅばっく	駐機している航空機を、牽引車(トーイングカー)で自力走行できる位置まで、移動させてやること。
ベリー便	べりーびん	旅客機の下部貨物室(ベリー)に貨物を搭載する航空便のことをいう。
ボーディングブリッジ	ぼーでいんぐぶりっじ	空港ターミナルビルと航空機を連結する旅客搭乗橋のこと。
ボトルネック	ほとるねっく	《瓶の首が狭いところから》仕事の進行の妨げとなるもの。難関。隘路(あいろ)。ネック。
誘導路	ゆうどうろ	滑走路とエプロン等を結ぶ航空機の通路を誘導路という。なお、誘導路には航空機の滑走路占有時間を短縮するため、複数の取付誘導路(通常、滑走路に直角に取付られる誘導路)とエプロンを結ぶ平行誘導路がある。(※口絵参照)
輸送人キロ	ゆそうにんきろ	運んだ旅客数に輸送距離(キロ)を乗じたもの。輸送活動の大きさを輸送距離の概念を含めて表した単位。
要因分析	よういんぶんせき	ある結果に影響する要因(主要な原因)を特定し、影響力を評価すること。
リードタイム	りーどたいむ	商品やサービス、資材などを発注してから納品されるまでに要する時間のこと。通常は日数で表す。

用語	読み	用語の意味
ローディングスポット	ろーでいんぐすぽつと	(エプロン/スポットの項を参照)
ロジスティックス	ろじすていつくす	原材料の調達から製品が顧客の手に渡るまでの過程を総合的にマネジメントし、市場のニーズやタイミングに合わせて的確に資材調達・生産・配送をする効率的な物流のこと。もともとは軍事用語で兵站を指し、必要な物資を必要なタイミングに補給する仕組みのことをいう。